第４回　旭川市民文化会館整備基本構想検討会　会議録（要旨）

会議名　　第４回　旭川市民文化会館整備基本構想検討会

開催日　　令和５年９月５日（火）
　　午後１時３０分から午後３時００分まで

開催場所　旭川市神楽公民館　第１研修室
　　（神楽市民交流センター２階）

出席者　　参加者　全１２名のうち９名出席
（敬称略）　　上田　信津子，大口　優，佐藤　淳一，鈴川　雄太
　　西川　祐司，水野　雅文，南　裕一，宮田　健一，
　　森　傑
　　事務局　２人出席
　　市民文化会館主査
　　事務局支援　７名
　　北海道大学大学院建築計画学研究室

会議の公開非公開の別　　公開

傍聴者数　　１名

会議資料　　別紙のとおり

１　開会

２　前回会議での質問事項への回答

事務局：

・　前回の会議において，水戸市民会館に関し「水戸市には県が運営するホールと市が運営するホールがあるが，それぞれのホールが担う役割や住み分け，多目的ホールか音楽など特定目的に特化したホールか，音響性能などの情報が知りたい」という質問を受けたところであるが，現時点での調査結果は参考資料のとおりである。

・ 音響性能など一部不明な点については，今後予定している視察の際にヒアリングを行い，確認の上で回答したい。
・ また，由利本荘市文化交流館カダーレに関して「平土間状態時のホールの利用区分はどのようになるか，またその時の利用料はどの程度か，またホールの形態別のイベント内訳等を知りたい」という質問があったので，施設に確認した結果について報告する。
・ まず，ホールの利用区分については，２階席のみで利用する予約方法はなく，平土間状態で使用する場合でも大ホール全体としての利用区分になる。また，ホールの可変性を利用したイベントの際には，大ホールの予約及びホールに隣接しているギャラリーや市民活動室など諸室の予約を行った上で対応するとの回答を得た。
・ 具体的なイベントの内訳などの詳細な回答は現状得られていないが，今後回答が得られた際には，改めて報告する。

３　グループディスカッション

進行役：
・ 今回の会議は、２グループに分かれ，グループディスカッション形式で皆様にアイデアを出していただく回である。
・ キーワードマップの中央に設けたボックスの中に，コンセプトとなるフレーズ案を記入していただくのが今回の目標である。

事務局：
・ 今回の目標はコンセプト案の作成であるが，これまでの検討会での皆様の発言をまとめたキーワードを適宜活用し，少人数で議論を重ねることで一緒に考えていきたい。
・ グループディスカッションを進める上で重要なことが２点ある。１点目は，キーワードマップに記載されているキーワードに優先順位をつけていくこと。２点目は，具体的なイメージを共有しながら議論を進めることである。
・ 以前の検討会でも話題に挙がったように，多目的ホールは無目的ホールになってしまう可能性があるため，全ての機能の実現を目指すのではなく，コンセプトとして大事にしたいことを考えることが重要である。
・ また，抽象的に考えるのではなく，具体的なシーンや活動と合わせて考えることで，新施設で重視したいことが見えてくる。
・ 具体的なシーンや活動のイメージを手助けする道具として「活動カード」を用意した。カードには，活動の内容を示した赤いカードと，イベントの内容を示した青いカードの２種類がある。このカードも活用しながら，議論を進めていくことを期待している。

（グループディスカッション）

- 第１回～第３回までの各参加者発言を集約した「キーワードマップ」をベースとして，今後の旭川市民文化会館整備検討に係る「コンセプト」を検討する。
- 当日出席のあった参加者９名について，グループＡ４名，グループＢ４名（進行役は加わらない）に分かれ議論。
- 各グループには，事務局支援として会議に参加している北海道大学大学院建築計画学研究室から，それぞれ１名がファシリテーターとして参加した。
- 約１時間のグループディスカッション終了後，各グループでの議論内容について以下のとおり参加者全員で共有した。

グループＡ：

- 主に「ホール機能」と「コンベンション機能」について深堀りする形で，どのような施設としてあるべきか検討。
- ホール機能に関しては，「規模（席数の多さ）」よりも「ステータス（音響等の性能や外観，旭川らしさ等の価値）」を重視することで，市民の理解や利用を促し，結果として文化芸術の成長・発展に寄与するのでは，という意見に各参加者の共感が寄せられた。
- コンベンション機能に関しては，中心市街地から空港が近いこと，宿泊施設がコンパクトに集約されているといった点から，コンベンションを開催する際の好条件に恵まれていることが旭川市の特徴であるという意見があった。
- なお，建設場所を市役所本庁舎跡地以外とした場合，コンベンションの視点からどうかという点については，例えば大雪クリスタルホールや大雪アリーナ周辺を含む神楽方面であれば，周辺施設を併用できること，また循環バス等を活用しつつ，現状とは違った良さがあるコンベンションの在り方が考えられることから，どの立地であってもコンベンション機能を内包する文化施設が旭川全体のまちづくりに貢献できるのではないか，という意見があった。
- これらの議論から，「まちづくりに貢献する施設であること」が大きな方向性であり，その中で旭川らしさを価値として創出することで，市民が日常的に施設を利用しつつ，その交流を通して文化芸術を育み，徐々に世界レベルのアーティストも招致できるような施設として育てていくことが重要であるという結論となった。

グループＢ：

- 「人が集う夢と感動のある空間～響き合う文化芸術～」をコンセプトの案とした。
- 「人が集う」というフレーズは，特定の活動をしている人だけでなく，敷居を低くして誰もが集うことのできる場所が良いという意見から発案した。

・ 「夢と感動のある空間」というフレーズは，大雪クリスタルホールがある神楽方面に文化会館が建設されると，周辺環境と調和した空間が生まれ，文化会館の役割が明確に果たせるのではないかという意見から発案した。
・ 「響き合う文化芸術」というフレーズは，音響性能の充実等により世界的なアーティストを招致することだけを目的とするのではなく，そうしたアーティストを見た子供たちや市民が刺激を受け，自分たちの文化活動に還元していくといったように，市民が一方では文化芸術を享受する側として，また一方では自ら活動する側として，双方向に活用される施設になってほしいという願いから発案した。
・ 大きな方向性としては，道北の中心拠点であること，そして一般利用がしっかり根付いた施設とすることで，文化芸術を通して，市民をはじめ様々な人々が相互関係を持てるような場所にしたいという意見にまとまった。
・ Ａグループと共通の意見としては，旭川らしさを大切にしたい，という思いがあった。旭川にしかない空間，建物自体が発信力となるシンボル性のある建物にしたいという意見であった。
・ 日常的な利用を促すためには，空間としての使い勝手だけでなく，条例や運営方法などソフト面も重要であるという点にも時間を割いて議論した。

４　総括

進行役：
・ ２グループともしっかりと結論をアウトプットしていただき，非常に有意義なディスカッションになった。
・ グループＡに「まちづくり」というフレーズがあるが，大きなポイントだと思う。文化芸術による街への貢献やそれに伴う経済活動面での貢献など，まちづくりに関して多面的に議論されていたことが，今日のディスカッションで特に印象に残った。
・ 両グループで共有した意見として，一部の人だけが来るような施設としてではなく，多くの市民にとって親しみやすい施設として整備することで，市民が文化芸術に触れ，育んでいくための入口としたい，という思いがあった。これを実現するためにどのようなことが必要かという点が，今後のテーマになってくるように思う。
・ グループＢのキーフレーズにあった「夢と感動」や「響き合う文化芸術」はとても魅力的に感じる。こうしたニュアンスを持続しながら，事務局で本日のグループディスカッションを振り返り，キーワードマップをブラッシュアップしていく。次回はその成果をもとに議論を進めていきたい。

５　閉会